

## 第15回 志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会

### 議事概要

1 開催日時 : 令和8年2月24日(火) 16:00~17:10

2 場所 : さつき会館(島根県飯石郡飯南町八神117-1)

3 出席委員 : 委員長 塚原 隆昭  
委員 空岡 健、上田 進一、山下 潔  
佐々田 大樹、綿貫 純也、兒子 真也(名簿順)

#### 4 議事次第

- ① 開会
- ② 委員長挨拶 塚原 隆昭 飯南町長
- ③ 議事
  - 1) 令和7年度アクションプラン実施内容の報告
  - 2) 令和8年度アクションプラン実施計画(案)
- ④ 閉会

#### 5 配布資料

- 資料-1 令和7年度 アクションプラン実施内容報告書  
資料-2 令和8年度 アクションプラン実施計画(案)

#### 6 委員長あいさつ

- ・水源地域ビジョン推進委員会は平成23年度にスタートし、この時期に年1回のペースで開催され、今回で15回目となる。
- ・水源地域ビジョンという計画が策定され、それを振り返る機会がきちんと出来ていることは誠に素晴らしいことであると思う。
- ・本委員会については志津見ダム水源地域ビジョンに基づき実施されるアクションプランについての実行支援やフォローアップをしていく役割を担っている。委員の皆様には積極的にご発言を頂きたい。
- ・ビジョンについては現在第2次の計画に基づき様々な取り組みを実施しているところである。
- ・島根大学の学生と志々地区で行っている田舎体験事業が本年度10回目の実施となった。年間を通して様々な交流が行われており、5月に田植え、7月に草刈りが実施され、10月は稲刈りの予定であったが、雨天のため代わりに本町の産地化が進められているパプリカの収穫体験、

- 志々のライスセンターでの乾燥機の見学などにより、地域の方と大学生との交流が行われた。
- ・ダム貯蔵酒の取り組みについては昨年度より松江市の李白酒造有限会社と連携して実施しており、今年度も4月に1000本貯蔵したものを、今年6月のポピー祭と10月のコスモス祭の際に搬出して販売される予定である。
- ・昨年2月に志津見ダム及び周辺地域が国土交通省の都市・地域再生等利用区域として指定された。これは河川空間のオープン化と呼ばれるものであり、中国地方では13例目、ダム本体としては初となる指定であった。フラワーイベント、ダム貯蔵酒の取り組み等これまで継続しているものに加え、リムトンネルへのサツマイモの貯蔵など新たな取り組みをPRするなど今後も志津見ダムの地域資源として幅広い利活用につながるものであると期待している。
- ・志津見ダムが完成して15年目になるが、この地に建設された志津見ダムの意義や地元の方々の思いを忘れず、志津見ダムを地域の貴重な資源、大切な宝として活用していかねばならないと思っている。

## 7 議事要旨

### ① 令和7年度アクションプラン実施内容の報告

### ② 令和8年度アクションプラン実施内容（案）

事務局から、資料－1により令和7年度アクションプラン実施内容の報告、資料－2により令和8年度アクションプラン実施計画（案）の説明を行った。

○：委員からの質問・意見 ●：事務局からの回答

- （佐々田委員）企業CSR活動は昔からこの時期に開催されていると思うが、同日開催のみじ祭りの集客も兼ねてこの日に実施されているという理解でよろしいか。
- 仰っておられるとおり、例年もみじ祭りというイベントが土日2日間開催され、そこに合わせて企業の方にお越し頂き、清掃活動と合わせて上下流交流をしていきたいということでこの日の実施としている。
- （山下委員）イベント時に川の魚が泳いでいるとよいと思っているが、現在生態調査行われているのであればどのような種類がどの程度生息しているかお聞かせ頂きたい。もし実施されなければその様なことも考えて頂きたい。やはり川には魚がいた方がよく、川が自然の形に戻り魚が生息する場所ができあがることで初めてダムが完成すると思っており、その様な方向で気に掛けて頂くことをお願いしたい。
- 志津見ダム周辺の生態調査は5年に1度ではあるが河川水辺の国勢調査とあって、ダム上下流の生態調査と水質調査を含めて実施しているところである。これに関しては引き続き確認していきたいと考えている。
- （山下委員）調査されているのであれば、魚が増えているかどうか追求されていないのか。調査の中で前回より多いのか少ないのかというようなことは分からないのか。
- 5年に1回の調査は魚類、植物、環境基図など様々な項目の中から毎年課題を決めて実施し

ており、概ね5年に1回フォローアップ委員会に諮りながら志津見ダム環境状況等確認させて頂いている状況である。近年のフォローアップ委員会では志津見ダムの環境について良くなった、悪くなったとの話は出ていない。

- （空岡委員）令和7年度にサップ体験会、ブルーライトアップ、ダムカードケースのライトアップ仕様の配布などされているが、これをどの様な形で広報されているのかを知らない。その様な情報をもっと広報して頂ければ来訪者や参加者が増えると思うので、その辺りが少し足りない気がする。神社跡地を非常に綺麗にして頂いたことにはお礼を申し上げたいと思うが、その様なアクションプランとして活動されている内容やこれから実施する内容について、もう少し地元住民にも分かりやすいような形で広報して頂きたい。SNSは分かるが高齢者には難しいところがあるのでよろしくお願ひしたい。
- 広報についてはXやフェイスブックなどSNSを中心に行っているところであるが、ご指摘のあったように周辺地域の方にも見えるような形で進めて行きたいと思う。
- （空岡委員）うぐいす茶屋に掲示板があり、そこに貼られると地元の方が一番見られるので活用されれば良いと思う。1畳くらいの大きさをイベントポスターや町内外から持ってこられたものを貼っているが、A3サイズでもよいので志津見ダムをライトアップしますなどの情報を貼っておけば、見た人が行ってみたいと思ってもらえると思う。
- （山下委員）ポピー祭、コスモス祭に合わせてゲートボール大会を開催しており、150名だけは安定的に来場者があったが、今年度を以て終了となったので昨年の来場者5,500名よりも150名は減となる可能性があるのではないかとと思われる。イベントというものは来場者が毎年少しずつ増えていくというのが理想であるが、次回は一気に減少することが想定されるので、そこをフォローする新しいものを取り入れるとか、PRをしっかりとするなど様々な方法で安定的な150名を確保出来るような方策を考えて頂きたいというのが要望である。
- 皆さんの意見を聞きながら実行委員会で今後の対応等考えていきたいと思う。
- （空岡委員）志津見ダムという地域資源があり、近くには三瓶山という観光地があるので、これらを有機的に結んだPRをどんどんやって頂きたいという声を聞いている。飯南町、大田市、美郷町で三瓶周辺の広域ツーリズムという組織があるようなので、そこをもっと推して頂き、近隣地域を結んで人を呼び込むようなことをお願ひしたい。
- （塚原委員長）大田市、美郷町、飯南町で三瓶広域ツーリズムという協議会があり、首長も委員であり観光協会も参加して、連携し共通する資源を活用した取り組みや地域内活動の助成等を行っている。例えば今回のコスモス祭とさんべ祭りは同日開催であり、意識的に日程を合わせてコスモスと三瓶山を満喫できるようにされたのかどうかは定かでないが、いずれにせよ志津見ダム、三瓶ダムは非常に重要な資源であり、連携した取り組みが出来るように意識して会議の中で発言したいと思う。
- （綿貫委員）今年度実施された取り組みに伐採木の無償配布というのがあるが、配布木は全

て無くなるものなのか。

●すぐに持ち帰られている。

○（綿貫委員）皆さんが持ち帰り薪か何かに利用されるのか。伐採木の再利用は素晴らしい取り組みだと思う。

○（兒子委員）薪やヒラタケなどの原木に使用されるなど、様々な用途があると思う。

○（塚原委員長）掲載写真の伐採木は数量的に実際には多いのか、この量が全てなのか。

●今年度の伐採は志津見大橋周辺のみであったため、写真に写っている量が全てである。

○（兒子委員）2年前に初めてポピー祭に来場したときにものすごい賑わいで感動したのを覚えている。出雲河川事務所としてはこの賑わいをもっと呼び込めるようにという部分もあり、書面にするとこれだけのものであるが、様々な新しい取り組みを行っているところである。SNSだけでは駄目だというお声もあるが、SNSを使った取り組みを積極的に行っており、昨年度は有名なユーチューバーの方に来てもらい、志津見ダムを全国的に紹介してもらうなど、若い世代に志津見ダム、飯南町、島根県東部という土地を知ってもらえるように積極的にアピールしてきたところである。また、先程ポスターを貼った方が良いというお話もあったが、デジタルサイネージという電光掲示板のようなものをうぐいす茶屋に置かせて頂きたいと思っており、紙媒体以外のものでも広く地域の方に見てもらえるようにしたいと思っている。更に伐採木処分の新しい取り組みとしてチップ化する機械を導入させてもらった。伐採木の処分には非常に費用が掛かるため無償配布も重要であるが、幹以外の枝葉はその何十倍もの量があり、その処分に苦慮していたところである。今回小型チップパーという枝葉を粉碎する機械を志津見ダム管理支所に準備させて頂いたので、地元内、町内でもご活用頂きたい。竹や庭木などを志津見ダムの管理区域に置いておいて頂ければチップ化したものを肥料として持ち帰って頂くことも可能であり、今後も地域のためになるようなものを導入していきたいと考えている。そして志津見ダムイメージアップとしてプロジェクションマッピングも実現したい取り組みである。ビジョンの表紙にあるようなことを実現したいという思いで、職員が知恵を出し各所をお願いしながら実現できそうなことを企画検討しているところであり、志津見ダムの壁面を利用したドライブシアターのようなことができないかなど、若い職員がアイデアを出し合って考えているところである。SNSでの様々な発信に対しても、志津見ダム下流域の耕作者の方から尾原ダム下流は今年渇水となっても志津見ダムのお陰で今年は渇水にならずに収穫できたと感謝の言葉を頂くこともある。ヘリコプターでの消火活動にも利用されたことなど、今後もしっかりと情報発信を行い地域の皆様に志津見ダムがあって良かったと言ってもらえるように頑張っていきたいと思っているので、足りない部分はあるが引き続きご指導頂きたい。

○（空岡委員）チップパーは志津見ダム管理支所に置いてあるのか。誰でも貸してもらえるものなのか。

○（兒子委員）貸出しして怪我などされると困るので、木材があれば管理区域内に置いておいて頂き、当方の業者が作業するのが安全だと思われる。機械のメンテナンスもしているので必要な時に仰って頂きたい。

○（空岡委員）その様にして頂けるのが一番良いと思う。

- （児子委員）これまで廃棄処分に出していたコストが不要となるので、その分伐採できる面積も増やすことができるようになる。
- （空岡委員）その様な話をもっと知りたい。本日我々はこの場にいるので活動内容も分かっているが、一般の方々はどのような活動をされているのかが分からないので、SNSもよいがやはり目に見えることが高齢者には有効だと思う。

## 8 意見・要望

- （上田委員）神戸川に並行する国道184号道路改良（直轄河川区域上流）について、今年の秋口までが工期となっているが、地元住民への説明が全く無く、どの様な工事をされるのか、農業用、融雪溝としても利用している地元住民生活用の水路がいつの間にか利用出来ないのかといったことも全く分からない状態で工事が始まっている。工事が始まる前には一通りの説明があってもよいのではないかと思う。自分は川の対岸に田を所有していたため、工事着手前に川を渡る仮設橋の説明を受け、その様な勿体ない工事をされるのかとその時に言ったが、その後地元業者が落札され、その業者に下流の橋を利用すれば良いのではないかという話をするとう業者と県が協議されてそのようになった。ダムより上流の話ではあるが結果的にはダムへのアクセス道路であり、やはり工事期間や工事方法などは大切な部分ではないかと思う。自治会からも話が無いという声も聞いているので、早急に説明をお願いしたいということをお場を借りてお願いさせてほしい。
- （綿貫委員）地元には全く説明が無かったということについては大変申し訳なかった。この場を借りてお詫び申し上げる。国道184号の工事は引き続き来年も施工したいと思っているので、できるだけ早いうちに工事計画、将来計画も含めて地元にて丁寧に説明したいと思うので、引き続きご協力をお願いできればと思う。大変失礼した。
- （空岡委員）志津見ダムにも関係することではあるが、この水源地域である志々地区の最大の関心事といえば志々小学校が1年先に閉校して統合される予定になっていることである。その原因は校舎の耐震不足によるものであるが、元はといえば志津見ダム建設により人口流出が起きた影響もあると思う。それを今どうこうできる問題ではないが、志々地区の活性化がビジョン推進委員会の目的であるので、我々がこれから一番関心を持って取り組むべきは、志々小学校の閉校後にこの地域をどのようにしていくかである。飯南町にもきちんとした方向性なり目的なりを持って取り組んでほしい。志津見ダムが完成してから15年、国土交通省、島根県、飯南町など色々な方々が一生懸命に志々地域の活性化ということで取り組んで頂いていることは承知しているが、なかなか有効な手立てがない。志々小学校閉校後の志々地区をどうするのかについても話し合いは進められているものと思うが、その情報も分からないので、このあたりで本当に有効な手立てを考えて頂き、少しでもこの地区が活性化するように、IUターンの方も含めて少なくとも人口減少がストップして維持できるくらいのことを考えてほしいということをお願いしたい。今がどの様な状況でどの様な話が進められているのか、本当にこの地域を活性化していこうという思いがあるのかないのか、単に小学校が無くなりましたということでは終わっては、志々地区から住民が減っていく一つの要素になると思うので、しっかりやってほしいということをお願いして私の要望とさせて頂

く。

- （塚原委員長）飯南町学校教育環境のあり方を検討ということで志々地区においては、耐震補強が施されていない校舎が危険であることと児童数の減少により統合の方針が出ている。勿論小学校は地域のシンボリック的存在であり、これが無くなることにより非常にマイナスな面はあると思うが、閉校となっても地域は存続していかなければならないので、現在地区協議会という組織を立ち上げて、この地域をどうデザインしていくのか、どの点に力を入れて地域振興、まちづくりを行っていくのかを議論しており、これに沿った形で行政としても対策を講じていくことになる。志々地区は確かにダム建設による人口流出による影響もあり他地区に比べて人口は少ない状況ではあるが、厳しいとはいえ皆さん頑張って暮らしや営みを続けておられるので、ぜひこの志々地区が元気な地域であり続けるよう行政としてしっかりと取り組んでいきたいと思う。地区協議会だけで結論が出るわけではなく、関係機関とも連携しながら地域活性化についてはしっかりと考えていきたいと思うので、皆様の方からも様々なご意見を賜りたいと思う。

飯南町の人口は2月1日の直近で4,228人であり、昨年から比べると100人程度減っている。これは死亡と出生の関係による自然減が一番大きいのであるが、コロナ前はプラスマイナスゼロや微増微減が続いていたものが、コロナ後は社会動態による社会減も進行し現在の人口減に至っている。しかし、志々地区の人口は昨年同時期に比べてマイナス2であり、この数字からはUIターンが進んでいる地区だと思っている。その様な強みもあり、移住者の受け入れが上手くいっている地域でもあることから、本当に持続可能な地域、皆さんに住み続けて頂けるような地域であってほしいと自分も思っており、しっかりとその様に取り組んでいきたいと思うので、なかなか明確な回答にはならないが、皆さんと一緒にやってこの地域が元気な地域であり続けるよう頑張っていきたいと思う。

- （山下委員）先日新聞に尾原ダムで発電するという記事が載っていたが、どの程度のものをどこがやられるのかということをお聞かせ頂きたい。自分が心配するのは尾原ダムの湯水で松江市の住民が水に困られているという話も聞いているので、その状態で発電する余力があるのかと思った。その辺りを含めてお聞かせ頂きたい。
- （兒子委員）尾原ダムでの発電は下流の魚や生物の生存に必要な1トンから多くても2トン程度の量しか流さない小規模なものとなる。元々建設時点に発電も検討はされていたが、採算が合わないということで企業局も中国電力も辞退され断念した経緯がある。現在多少の規制緩和により完成後のダムにおいて建設費の一部負担が発生しない形で発電所の設置費用のみで行う発電が可能となった。また、FITという国が税金を多少補填する程度の一定額で買い取る制度もでき、多少の利益も得られるということで数社から応募があり、その中の優位で安定している島根県企業局に選定させてもらった。下流に流れる水量はこれまでと変わらず、常に放流している水で発電する施設となる。